大人になれなかった弟たちに……（2）

米倉 斉加年

（父が戦争に行っていたため、「僕」は、母、祖母、妹、弟とともに五人で暮らしていた。そのころはアメリカのB29による空襲が毎日のようにあり、毎晩、「僕」の家族は、ゆかの下に掘った防空壕でねていた。）

あまり空襲がひどくなってきたので、母は疎開しようと言いだしました。それである日、祖母と四歳の妹に留守番をたのんで、母が弟をおんぶして僕と三人で、①親戚のいる田舎へ出かけました。ところが、親戚の人は、はるばる出かけてきた母と弟と僕を見るなり、②うちに食べ物はないと言いました。僕たちは食べ物をもらいに行ったのではなかったのです。引っ越しの相談に行ったのに。母はそれを聞くなり、僕に帰ろうと言って、③くるりと後ろを向いて帰りました。

④そのときの母の顔を、僕は今でも忘れません。強い顔でした。でも悲しい悲しい顔でした。僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。僕たち子供を必死で守ってくれる母の顔は、美しいです。僕はあのときのことを思うと、いつも胸がいっぱいになります。

疎開

戦争中には、空襲などを避けるために、都市から地方への移住が行われていた。これを疎開という。なお、「僕」が暮らしていたのは福岡で、こののち「僕」の家族は福岡から南に二十キロほどのところにある石釜という山あいの村に疎開することとなる。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「親戚のいる田舎へ出かけました」とあるが、なぜ親戚のもとに出かけたのか。適当なものを選びなさい。

ア 三人で先に疎開するため。
イ 弟を親戚に預けるため。
ウ 引っ越しの相談をするため。
エ 食べ物を分けてもらうため。

〔　　〕

(2) ――線②「見るなり」の意味を選びなさい。

ア 見た通りに　　イ 見るとすぐに
ウ 見たのに　　エ 見ることなく

〔　　〕

(3) ――線③「くるりと後ろを向いて帰りました」とあるが、このときの母の気持ちとして適当なものを選びなさい。

ア 食べ物をもらいに来たと誤解され、やるせない気持ち。
イ 食べ物がもらえないことに、がっかりする気持ち。
ウ 親戚の人に相談ができず、途方（とほう）にくれる気持ち。
エ 親戚の人の冷たい態度に、あきれはてる気持ち。

〔　　〕

(4) ――線④「そのときの顔」を、「僕」はどのような顔だと思っているか。解答欄（かいとうらん）に当てはまるように、本文中から十五字で書きぬきなさい。

母の顔。